

令和2年度特別展津山市友好交流都市

出雲市・諫早市

# 三市交流展

出雲市

諫早市



①



②



③



④



⑤



⑥

①特製茶・特殊器台(西谷2号墓)〈出雲弥生の森博物館蔵〉  
②白糸威鎧(復元)〈出雲文化伝承館蔵〉 ③松平不昧像〈出雲文化伝承館蔵〉

④モルチール砲(雛形)〈個人蔵〉 ⑤染付唐人龍蹄文三段壺【亀山焼】〈諫早市美術・歴史館蔵〉【諫早市指定文化財】  
⑥御船行列図(部分)〈諫早市立諫早図書館蔵〉【長崎県指定文化財】

令和2年10月24日(土) ▶ 11月29日(日)

会場／津山郷土博物館 3階展示室

開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日／月曜・祝日の翌日・その他

津山郷土博物館  
Tsuayama City Museum

記念講演会 11月1日(日)

津山圏域雇用労働センター大ホール ※詳細は裏面をご覧ください

## 津山市・出雲市・諫早市交流のあゆみ

広域市町村圏の中核都市として、当時類似点が多かった津山市、出雲市、諫早市との間で、友好を深めともに発展することを目的に、昭和56年、三市間で友好交流都市提携が結ばれました。縁組の話は当時の自治省(現総務省)の仲立ちで進み、7月28日、東京都内の全国都市会館にて提携式が執り行われることとなり、全国で初の総合的な3都市間の縁組となりました。

以来、3市間では職員の派遣をはじめ、各種団体の交流が続いています。



▲友好交流都市提携式の様子

 <p><b>出雲市</b></p> <p>人口 174,834人 面積 624.36km<sup>2</sup> 市の木 黒松 市の花 菊</p>  <p>稲佐の浜の夕景</p>	 <p><b>津山市</b></p> <p>人口 100,078人 面積 506.33km<sup>2</sup> 市の木 くすのき 市の花 さつき・さくら</p>
 <p><b>諫早市</b></p> <p>人口 134,122人 面積 341.79km<sup>2</sup> 市の木 ヒゼンマユミ 市の花 ツクシジャクナゲ</p>  <p>白木峰高原のコスモス</p>	<p>※人口は令和2年7月1日現在</p>

### 令和2年度特別展津山市友好交流都市 出雲市・諫早市三市交流展

- 会 期／令和2年10月24日(土)～11月29日(日)
- 開館時間／9時～17時(入館は16時30分)
- 休 館 日／月曜 祝日の翌日 その他
- 入 館 料／一般300円(240円) 高校・大学200円(160円) 65歳以上200円(160円)  
※( )内は30名以上の団体料金

※津山市新型コロナウイルス対策事業により、津山市民の入館は無料となります。

- アクセス／JR津山駅から北へ徒歩15分  
中国自動車道 津山・院庄ICから車で15分
- 主 催／津山市
- 共 催／出雲市 諫早市

### 記念講演会

- 日 時／11月1日(日) 午後1時30分～
- 会 場／津山圏域雇用労働センター大ホール(津山郷土博物館東隣)
- 講 演／講演① 午後1時30分～午後2時30分  
講 師：出雲弥生の森博物館 館長 花谷 浩氏  
演 題：出雲の魅力-それを歴史から探る  
講演② 午後2時45分～午後3時45分  
講 師：諫早市美術・歴史館 専門員 大島 大輔氏  
演 題：佐賀藩諫早領と長崎警備
- 定 員／40名 事前予約不要です。当日お越しください。



津山郷土博物館  
Tsuayama City Museum  
〒708-0022 岡山県津山市山下92 TEL (0868) 22-4567  
H P <http://www.tsu-haku.jp> 津山郷土博物館 検索  
Mail [tsu-haku@tv.tn.ne.jp](mailto:tsu-haku@tv.tn.ne.jp)

# 長崎県諫早市

諫早市は、長崎県南部の中央に位置し、奈良・平安時代には中央と地方相互の情報伝達のための早馬を乗り継いだ「駅」が設置され、江戸時代には長崎と江戸を結ぶ長崎街道や島原街道が分岐・合流するなど、古くから交通の要衝として発展してきました。現在でも、4本の国道とJR、島原鉄道が交わり、交通の要衝としての大きな役割を有しています。

地理的には、有明海、大村湾、橘湾の特性の異なる3つの海に囲まれ、北部には多良山系の山々を擁するなど、豊かで多様な自然環境に恵まれており、楽焼うなぎ・おこし・小長井牡蠣・伊木力みかんなどのおいしい食べ物も豊富です。

中心市街地を流れる本明川下流の諫早平野は、主に近世以降の干拓によって形成された県内最大の穀倉地帯です。工業面では、諫早中核工業団地等を有し、製造品出荷額等は県内第2位となっています。

「諫早」の地名は戦国時代までは「伊佐早」でしたが、龍

造寺家が伊佐早の新たな領主となった後、自らの姓と地名を「諫早」に変えたと言われています。江戸時代、諫早は「佐賀藩諫早領」であり、諫早家は多久・武雄などとともに佐賀藩の親類同格として藩政を支えました。中でも外国船の来襲に備えた長崎警備では、その最前線で大きな役割を果たしました。

まちのシンボル「眼鏡橋」は、石橋としては国重要文化財指定の第1号です。現存する2連式アーチの石橋では日本一長く、またその優美な姿も市民の誇りとなっています。

平成17年(2005)には1市5町が合併し、新しい「諫早市」が誕生しました。現在、50年に一度という大変革の時期を迎えており、広域道路網の整備や中心市街地の活性化、九州新幹線西九州ルートの整備促進、諫早駅周辺整備、スポーツ・文化施設の整備など、将来都市像「ひとが輝く創造都市・諫早」の実現を目指したまちづくりを着実に進めています。



眼鏡橋

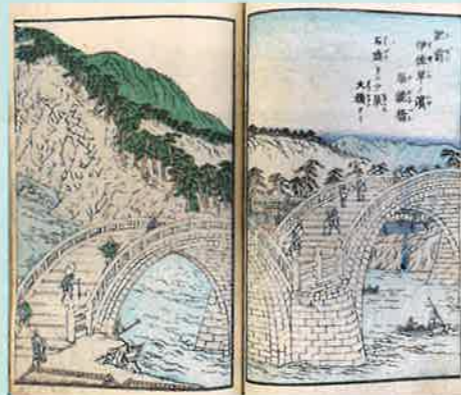


楽焼うなぎ

諫早は江戸時代からうなぎ料理が有名です。蒲焼を二重底の楽焼の器で蒸すので、ふっくらとした舌触りが魅力です。



刷毛地紫陽花文鉢(蚩手)【現川焼】〈諫早市美術・歴史館蔵〉【諫早市指定文化財】



『萬象写真図譜第三巻』  
「肥前 伊佐早ノ濱 眼鏡橋」  
(個人蔵)



三耳付葉茶壺【土師野尾焼】  
〈諫早市美術・歴史館蔵〉  
【諫早市指定文化財】



イラストレイテッド・ロンドン・ニュース 眼鏡橋部分拡大(個人蔵)

# 島根県出雲市

出雲市は島根県の東部に位置し、市域の北部は神が引き寄せた地と神話が伝わる島根半島、中央部は山陰地方随一の広さを誇る出雲平野、南部は中国地方の脊梁山脈である中国山地で構成される、自然豊かなまちです。

出雲平野は農業生産力の高い地域であり、日本海沿いには多くの漁港も有しています。また本市は、工業においては山陰地方有数の拠点であり、商業集積も進み各産業が調和した地域です。同時に、出雲縁結び空港、山陰自動車道を備えることから、県内の交通拠点でもあります。

さらに、「神話の國出雲」として全国に知られているように、本市を最も特徴づけるものとして、豊富な歴史文化遺産があげられます。時代を追って主なものを紹介しましょう。

次に、古墳時代では、日本一大きな家形石棺を内蔵する出雲最大の前方後円墳「今市大念寺古墳」や、平成30年(2018)に出土品140点が重要文化財に指定された上塩冶築山古墳などが、全国的にも注目を集めています。

また、中世における出雲大社は「国中第一の霊神」と称され、神仏習合思想を背景に鯛淵寺と強く結び付き、出雲における信仰の中心となりました。現在も年間600万人近くの参拝者や観光客が訪れる山陰地方を代表する歴史文化遺産となっています。

さらに、近世においては、たたら製鉄が出雲の一大産業として発展しました。田儀櫻井家たたら製鉄遺跡はたたら製鉄の一貫した工程が把握できる貴重な史跡で、現在保存活用のための整備が進められています。

このほか平成29年(2017)には、「日が沈む聖地出雲」神が創り出した地の夕日を巡る「」が日本遺産に認定され、この地の新たな魅力を伝えるコンテンツとして観光誘客に寄与しています。



出雲日御碕灯台



西谷墳墓群

このような、各時代の様々な歴史文化遺産が幾重にも重なり織りなされたものが、今日、人々の心を惹きつける「出雲らしさ」を形成しています。これからも、多くの方々に訪れていただけるよう、出雲市の宝である歴史文化遺産の保護活用を推進し、その魅力を広く情報発信していきます。



出雲国図〈出雲文化伝承館蔵〉



荒神谷遺跡出土銅鐸(複製)  
〈荒神谷博物館蔵〉



御本写鶴茶碗【布志名焼】  
〈個人蔵〉



神像群〈出雲文化伝承館蔵〉